

DX時代の開発プロセスに組み込む

脆弱性診断

AIで実装するシフトレフト

DXの進展でセキュリティ対策の需要は高まっている



デジタルサービスの開発・提供
自社で管理すべきデジタル資産

増

×

急速な技術の進化

||

必要なセキュリティ対策の

対応範囲は
拡大

難易度は
上昇

「セキュリティもやる前提」の開発現場が直面する課題

脆弱性診断に時間がかかり
リリースサイクルの
足かせになっている



セキュリティ人材不足で
リスク管理・優先順位づけや
対策に手が回らない



新旧の基盤・技術が混在し
どこに穴があるのか
全体像を把握できない



サプライチェーンリスクへの不安が大きい一方で
開発スピードを落とさずにセキュリティを担保することが難しい

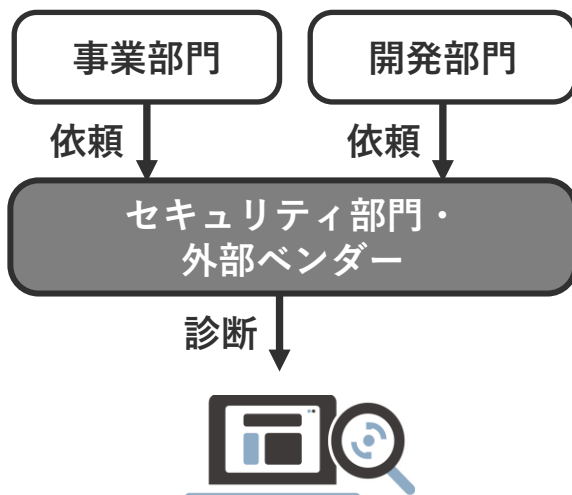


開発とセキュリティを両立するために、運用体制を見直す

セキュリティを開発の中に組み込むことで、スピードアップが実現する。

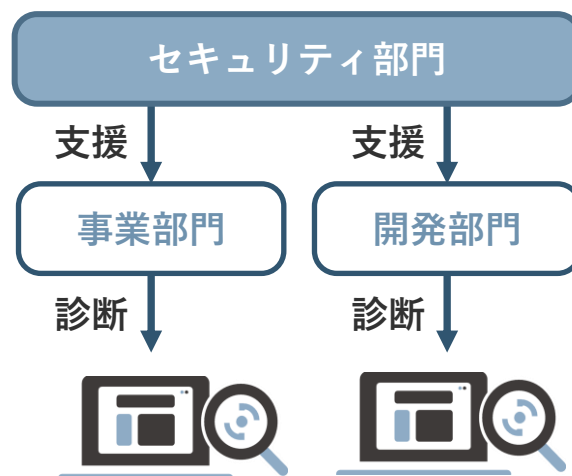
従来の運用体制

セキュリティ部門が
まとめて診断



これからの運用体制

事業部門・開発部門が
脆弱性診断を実施できる
体制を構築

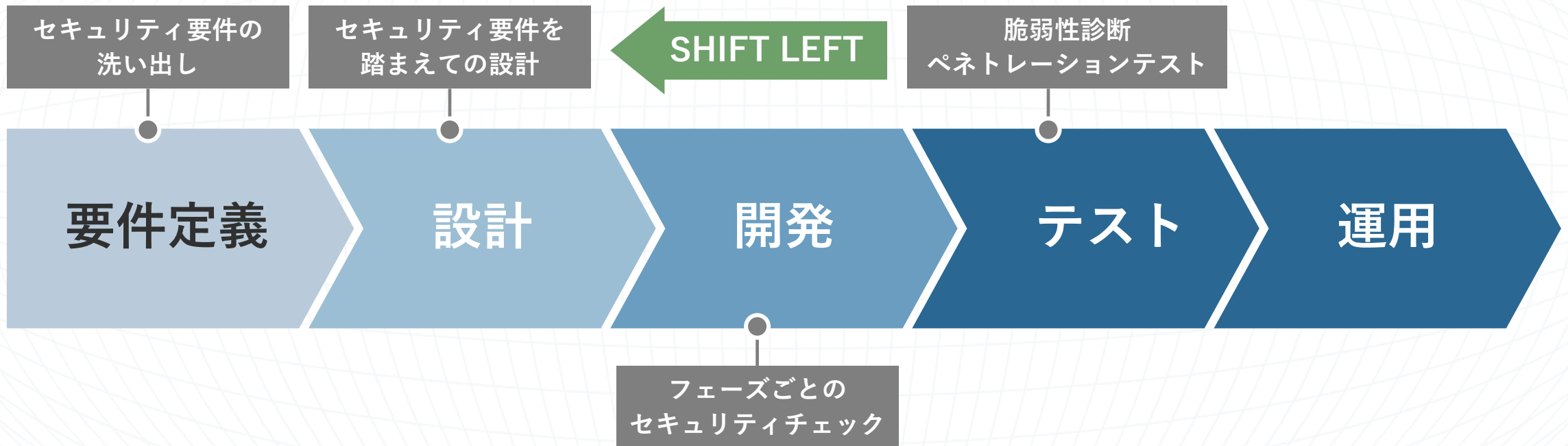


実現したいこと

- ✓ シフトレフトの実現
- ✓ 診断対象の的確な把握
- ✓ セキュリティ意識の醸成

PMの負担を減らしながら、品質を高めるシフトレフト

問題を早期に発見・修正することで手戻りが減り、スピードアップと品質向上を両立。



さらに、対策を講じるべき対象を的確に把握できる。
また、セキュリティ意識の醸成にもつながる。



シフトレフトを進める上で立ちはだかる「内製化」の壁

セキュリティ対策を内製化する第一歩として、脆弱性診断ツールの選定があるが、そこでつまづきがちです。

まずは無料のものから
使ってみるべき？



どれが自分たちのニーズを
満たしている？



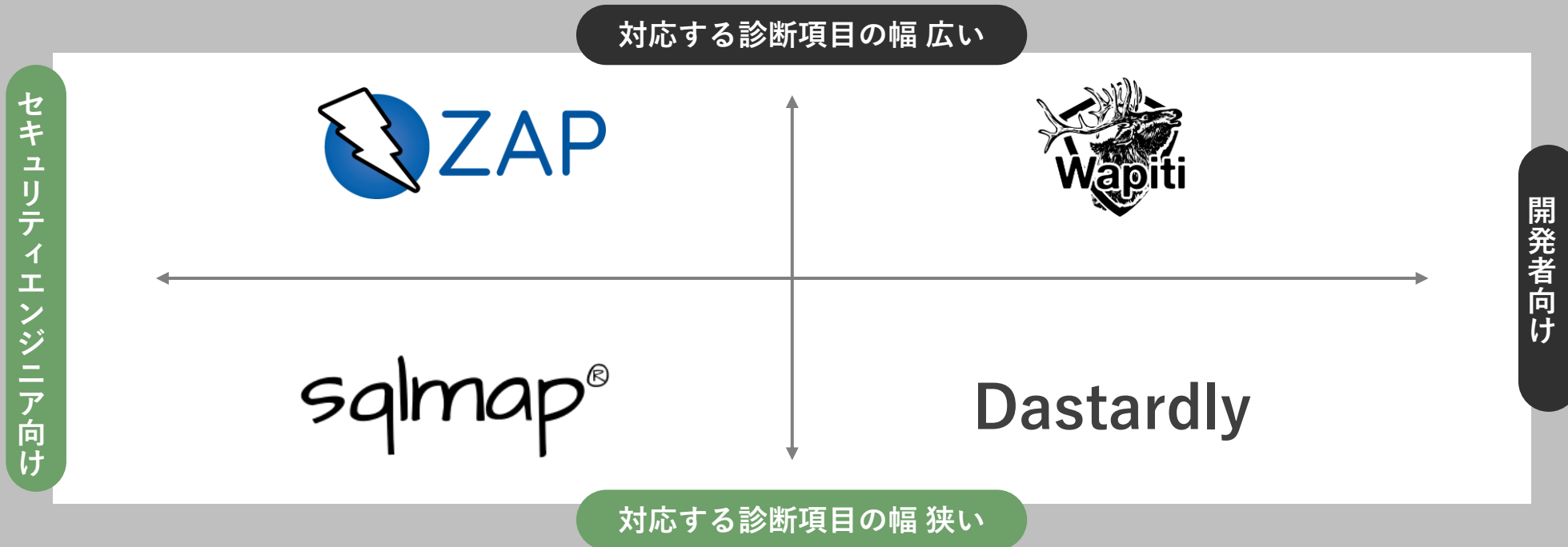
正直、どれも同じに
見える…



そもそも、内製化のために有償ツールを導入するのはハードルが高い…

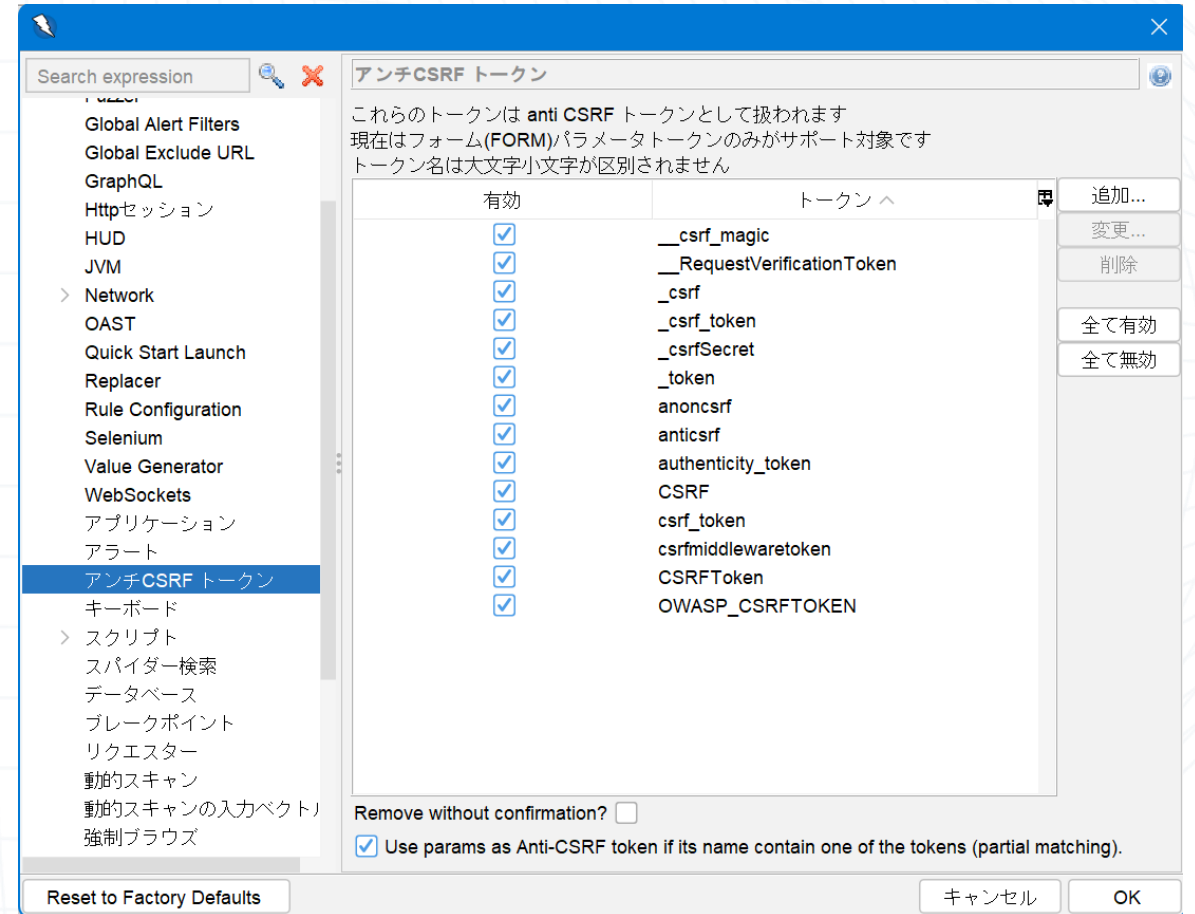
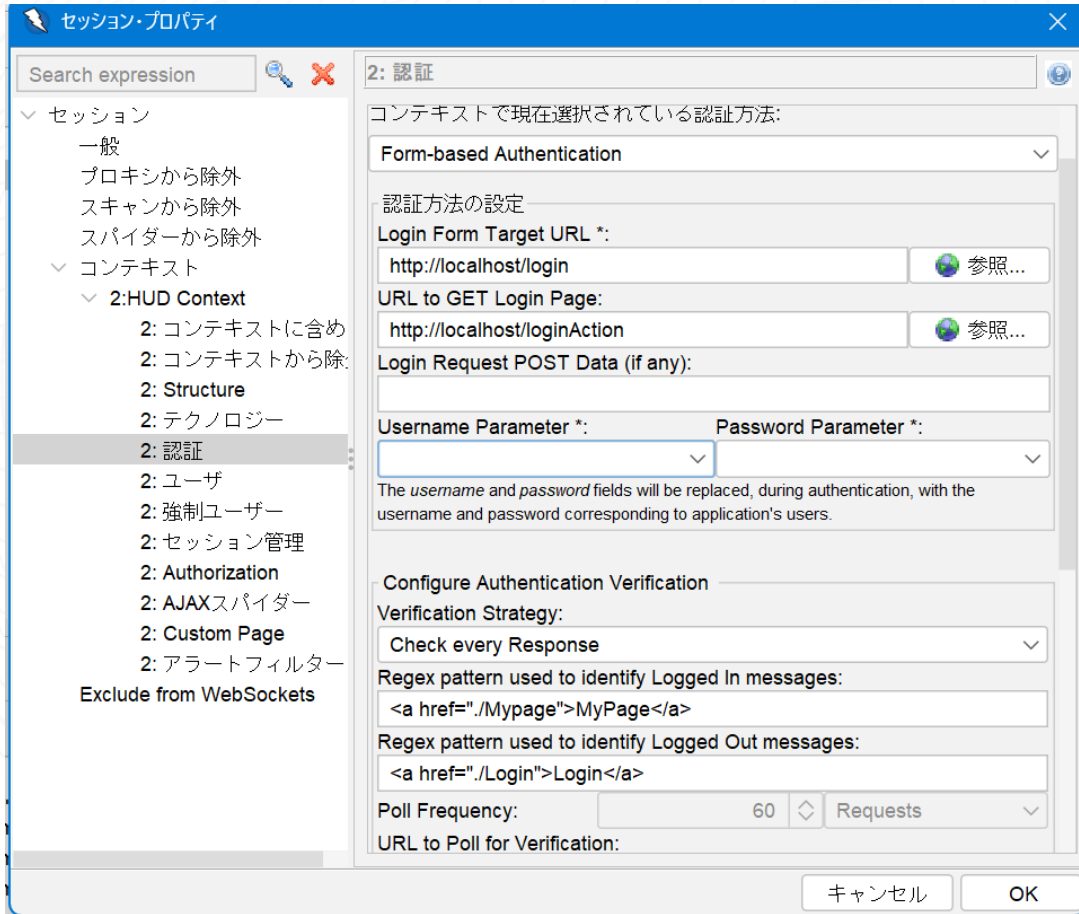
内製化の第一歩として選ばれがちな「無料ツール」

脆弱性診断ツールの一例



設定さえ行えば、無料ツールでも脆弱性診断を行うことは可能。
→ 実際の画面をご覧ください！

OWASP ZAP 実際の画面



無料ツールを導入しても、逆に工数がかかっては意味がない

Webサイトの数が増え、それぞれ診断頻度が高まると、人力での対応に限界が…

診断対象の増加

並行して開発されている
複数の製品に診断が必要



リソース不足

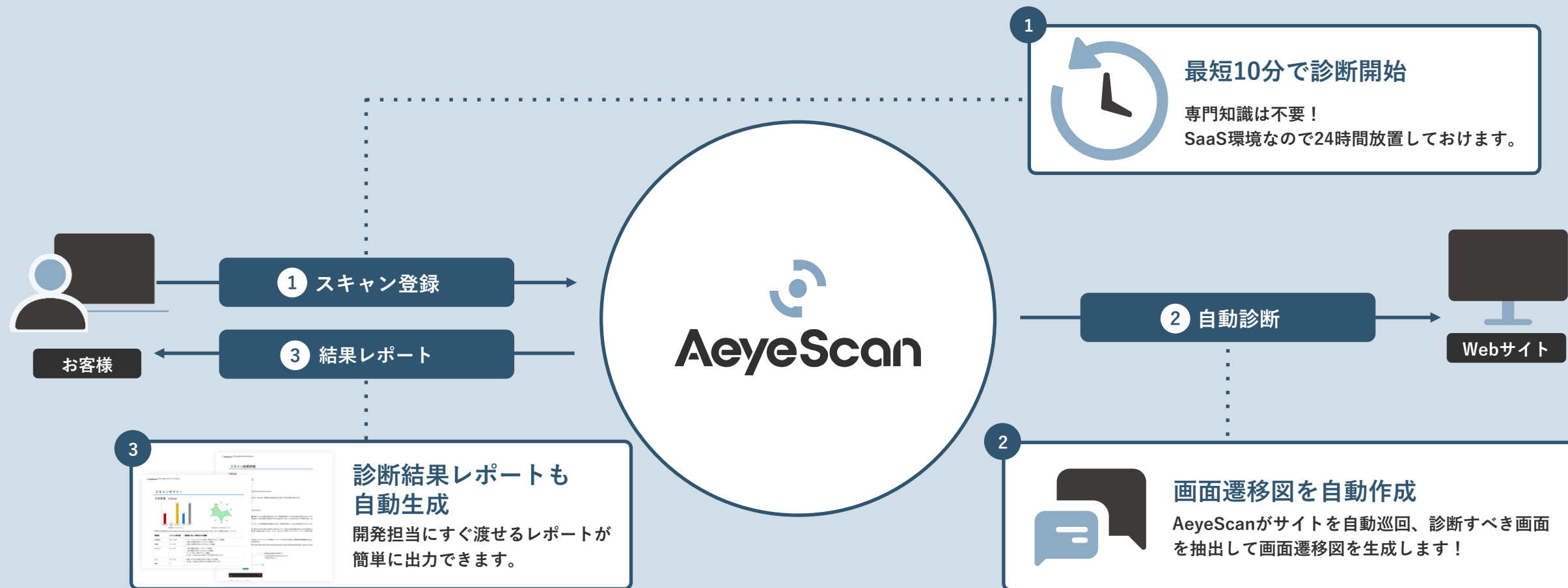
各製品に割ける人員や
スケジュールに限りがある



そこでご紹介したいのが、AI活用により**診断を自動化**するツール

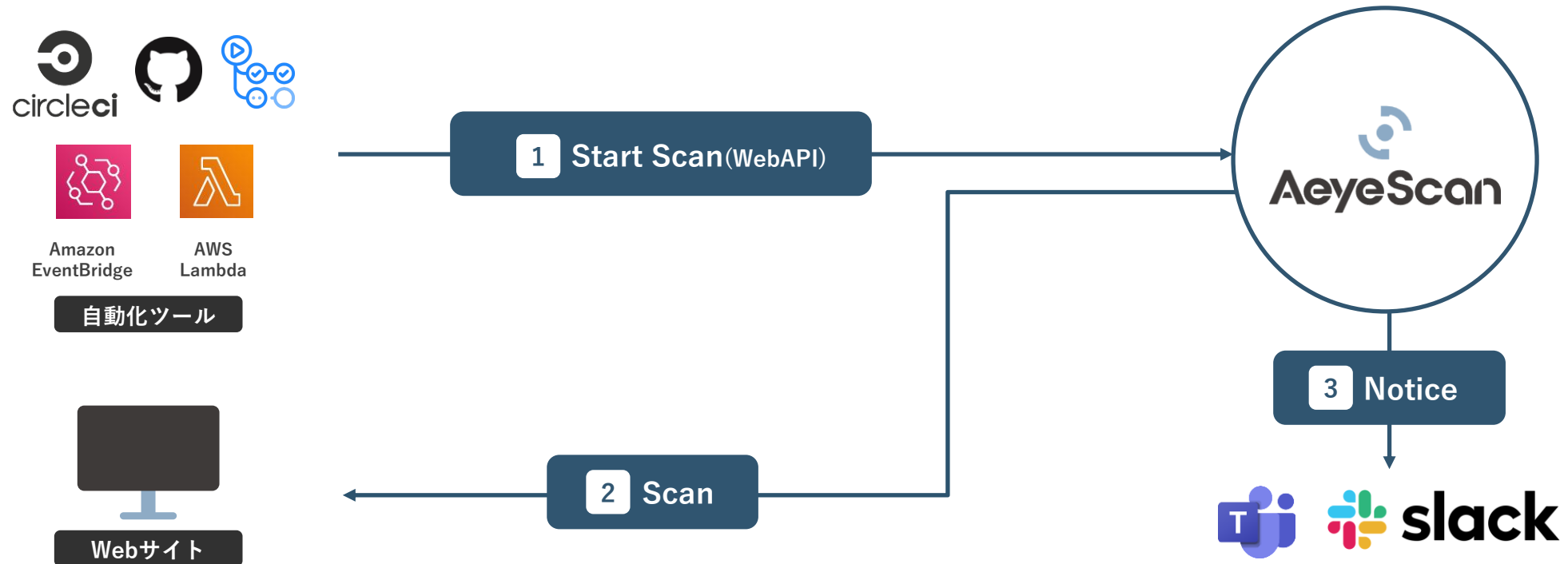
AeyeScanとは：診断の全工程を圧倒的に自動化

AI・RPA活用により、脆弱性診断を自動化するクラウド型Webアプリケーション診断ツールです。



CI/CD連携でアジャイル開発・高頻度リリースでも漏れなく診断

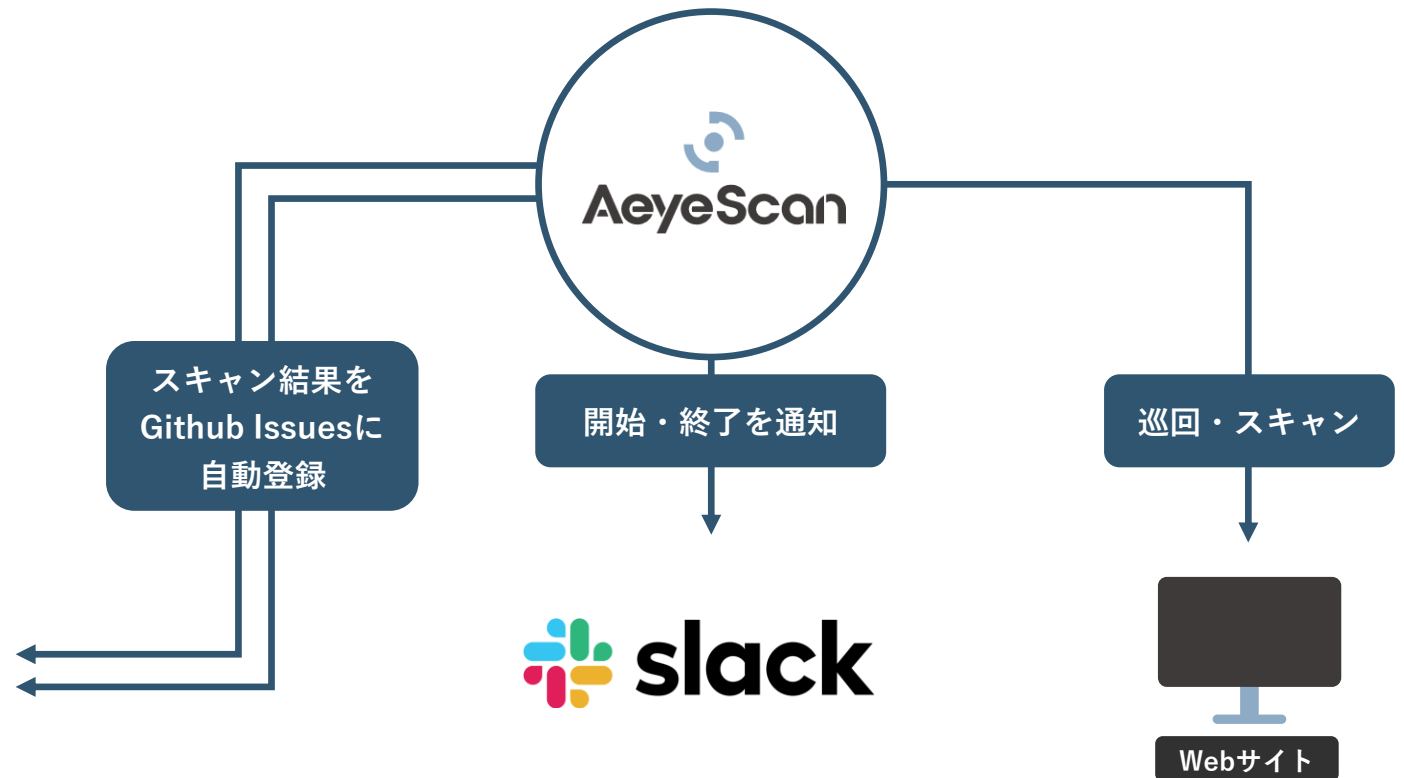
CI/CDに組み込むことで、リリースのたびに自動で診断が実行される仕組みづくりが可能に。診断を開発プロセスに組み込み標準化できるので、大幅な効率化とセキュリティ強化を両立。



仕組みづくりと効率化の事例

Github Actionsを使い、診断を自動化。結果も一元管理

1. スキャン作成
2. APIキー作成
3. GitHub secretsの追加
APIキーとトークンの値を設定
4. GitHub Actions workflowの作成
Githubリポジトリにworkflowを作成



内製と外注を併用する「ハイブリッド型」の運用がおすすめ

脆弱性診断のベストな頻度

1 Webサイト構築時

まず、Webサイトの設計・開発時に可能な限り脆弱性を解消しておく。



2 Webサイト運用時

運用中に発生する問題に対応し、Webサイトの安全性を維持する。

自社のセキュリティポリシーに適した運用を。推奨は…



年に1回の
定期診断

+



リリースや
機能改修時

ツールだけで全てをまかなおうとせず、
大規模改修などの際は外注も視野に入れ、濃淡をつけた対応を！

導入事例紹介

カプコン様



企業名 株式会社カプコン

事業内容 ゲームコンテンツ事業

従業員数 連結 3,531名 / 単体 3,186名 (2024年3月時点)

課題

共通アカウント管理サービスやゲームのプロモーションサイトなどに対し高頻度な診断ができない状況だった

具体的な課題

- 1 年々サイト数が増えており、外部ベンダーに依頼すると診断するたびにコスト・工数・時間がかかる
- 2 頻度高く診断ができない

共通アカウント管理サービス「CAPCOM ID」を展開するほか、ゲームタイトルごとのプロモーションサイトが年々増え続けており、脆弱性診断のすべてを外注でまかなうにはコスト・工数・時間の観点で課題があった。

導入

技術者でなくても操作できるUI/UXと従量課金ではない料金体系が決め手に

導入の背景

- 1 技術者ではない現場メンバーも使える
- 2 従量課金ではなく同一料金
- 3 国産ツールのため日本語でサポートしてもらえる

現場主導の診断体制を目指す中で、誰でも使えるUI/UXであることと、FAQやドキュメント、サポートが日本語である点を評価。最適な運用ルールの策定支援など手厚いサポートにより、スムーズに運用を開始。

効果

現場主導の高頻度な診断を実現。
診断工数は1/10と大幅な削減に繋がった

具体的な効果

- 1 コスト・時間・工数が大幅に削減
- 2 再診断にかかるコストを気にせず、気軽に実施できる
- 3 セキュリティリスクの低いサイトへの診断頻度も増加

AeyeScanの活用により、セキュアなWebサイト運営とコストや時間、工数の大幅な削減を実現。導入後は、外注時と同等レベルのレポート品質や、実際に巡回・診断したかどうかを画面遷移図で確認できる安心感も評価。

 **AeyeScan** (エーアイスキャン) により
セキュリティ対策にかかる **コストを削減!**



クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア

No.1※



有償契約
300社以上

※富士キメラ総研調べ「2025 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」Webアプリケーション脆弱性検査ツール ベンダーシェア (2024年度実績)
※ITR調べ「ITR Market View : サイバー・セキュリティ対策市場2025」SaaS型Webアプリケーション脆弱性管理市場: ベンダー別売上金額シェア (2023年度実績)

プロが認める品質・精度

セキュリティベンダーやSIerでも
顧客向けサービスとして活用



ブラウザ上での直感的な操作

専任エンジニア不要、情シスや開発部門でも
安定した運用が可能

AeyeScanの導入を検討してみませんか？

操作性の確認、実際に利用してみたい方へ

AeyeScan の 無料トライアル

トライアルにかかる費用は不要。実際の操作性はどうか？
またどのように脆弱性が発見されるのか？
などの疑問は無料トライアルで解消しましょう。

無料トライアルの申し込み



お見積りの希望・導入をご検討している方へ

AeyeScan への お問い合わせ

お見積りの希望・導入をご検討してくださっている方は
お問い合わせフォームよりご連絡ください。
当日もしくは遅くとも翌営業日にはご連絡を差し上げます。

お問い合わせフォーム



定期開催中！

AeyeScanがよく分かるデモ動画・セミナー

AeyeScanを
検討してみたい方へ

AeyeScanがどんなものか知りたい方向けに、
デモを交えてわかりやすくご紹介。
まずは気軽に使い勝手をチェック！

AeyeScanデモ動画を視聴

AeyeScanの操作を
体験してみたい方へ

実際の操作を通して、一連の機能を体感。
導入前の不安や疑問をまるごと解消。
“わからないまま”をなくすセミナーです。

ハンズオンセミナーの日程を確認

セキュリティ対策に
お悩みの方へ

最新の事例や対策ノウハウをテーマ別に紹介。
月替わりで学べる無料ウェビナーを開催中。
お気軽にご視聴いただけます！

ウェビナーの日程を確認

